

てづく かみしばい
手作り紙芝居

3月16日「こうせんる ふきねん ひ広宣流布記念の日」

どうにゆうぶ
導入部

3月16日は、「こうせんる ふきねん ひ広宣流布記念の日」です。だいにだいかいちょうと だせんせい第二代会長戸田先生から当時の青年部へ、なかなづくわか若き日の池田先生へと「こうふ広布のバトン」がてわた手渡されたこの日の意義を、まな学んでいきましょう。

1枚目／せいねんぶ だいひょう青年部の代表が、ぜんこく けっしゅう全国から結集（7枚目の絵の裏に貼る）

1958年（しょうわ昭和33年）の3月16日、だんじょせいねんぶ だいひょう男女青年部の代表6000人が集って「こうせんる ふ広宣流布のバトン」を受け継ぐ式典がひら開かれました。これは、「しょうらい将来のために広宣流布のもぎしけん模擬試験、よこうせんしゅう予行演習となる式典をしよう」とのだいにだい第二代会長戸田先生のていあん提案を受け行われたものでした。

2枚目／こうけい せいねん こうせんる ふ たく後継の青年に広宣流布を託す（1枚目の絵の裏に貼る）

と だせんせい だいにだいかいちょう戸田先生は第二代会長に就任した際に、しゅうにん さい75万世帯の弘教を目標として掲げられました。この目標は、ぜんねん前年にあたる1957年（しょうわ昭和32年）の暮れ、いけだせんせい ちゅうしん池田先生を中心とした青年がせいねん すいしんりょく推進力となって達成されました。

戸田先生はまた、ごしょ御書のはつかん発刊など、な成すべきことをすべて成し終えたうえで、お後継の青年にすべてを託すべくこのしまてん式典を行ったのです。

3枚目／こころ とんじろ心づくしの豚汁（2枚目の絵の裏に貼る）

しまてんとうじつ そうちょう ぜんこくかくち ぞくぞく とうちやく式典当日の早朝、全国各地から続々と到着する6000名の青年部員たちを待っていたのは、心づくしの「豚汁」でした。「みな なに あた皆に何か温かいものを食べさせてやりたい」とのと だせんせい はいりよ戸田先生の配慮によるものでした。

し じあい師の慈愛が、青年たちを温かくつつ包みました。

4 枚目／弟子の真心が結晶した車駕 (3枚目の絵の裏に貼る)

当時、戸田先生はすでに衰弱が激しく、支えられなければ歩行も困難な状態でした。そこで体調を心配した池田青年室長（若き日の池田先生）は、師匠が安心して動いていただけるよう、特製の「車駕」を用意しました。『三国志』で有名な諸葛孔明が、五丈原の戦いで四輪の車に乗って指揮をとった故事になったものでした。

それを見た戸田先生は、当初「大きすぎて、実戦に向かぬ！」と叱咤しました。最後の最後まで、命をふりしぼっての、愛弟子への訓練でした。しかし、式典が始まると、愛弟子の真心に応え、車駕に乗り、悠然と会場に向かいました。

5 枚目／病身をおしての、渾身の指揮 (4枚目の絵の裏に貼る)

この式典には、時の首相の参列が予定されていましたが、当日の朝になって、首相から突然、急用で参加できなくなったとの連絡がありました。しかし戸田先生は、「誰が来なくても、青年と大儀式をやるのではないか！」と、病躯をおして渾身の指揮をとられたのです。

6 枚目／「創価学会は宗教界の王者」 (5枚目の絵の裏に貼る)

12時40分、池田青年室長の司会で式典が開始され、戸田先生がスピーチをしました。

「われわれには広宣流布を断じてなさねばならぬ使命がある。それを今日、私は君たち青年に託しておきたい。未来は君たちに任せる。頼むぞ、広宣流布を！」

そして、戸田先生は「創価学会は、宗教界の王者であります」と雄々しく宣言されたのです。

7 枚目／広布後継の誓願の日——3. 16 (6枚目の絵の裏に貼る)

この「3. 16」によって、池田先生は師匠から「魂のバトン」を受け継ぎ、広布の大道を開き続けてきました。その死身弘法の闘争によって、今やSGI（創価学会インタナショナル）は192カ国・地域に広がっています。

池田先生は語っています。「師匠に弟子が勝利を誓う。そして必ず勝つ。この『誓願』と『勝利』にこそ、大仏法の血脈は流れ通うのだ」と。(2007年10月全国青年部幹部会へのメッセージ) 師匠の万感の期待に、後継の青年が応えゆく誓願の日——それが3. 16「広宣流布記念の日」の意義なのです。

決意等